

# 麦作情報(鳥害調査編)

令和4年2月4日  
宮城県石巻農業改良普及センター  
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>  
技術情報はこちらのQRコードからも! ↓



麦類ほ場におけるハクチョウやガンによる食害の影響を明らかにするため、桃生地区の令和2年産大麦の生育調査ほにおいて調査を実施しました。被害が認められた2月から成熟期までの生育調査や収量調査の結果をご紹介します。

## 1 ガンカモ類の生息数

昭和62年度からの生息数の推移をみると、県全体の生息数は年々増加しており(図1)、令和3年1月13日に実施された調査では、ガン類ハクチョウ類カモ類合計で、約26万羽(速報値)確認されました(次回調査は、令和4年3月の予定です)。

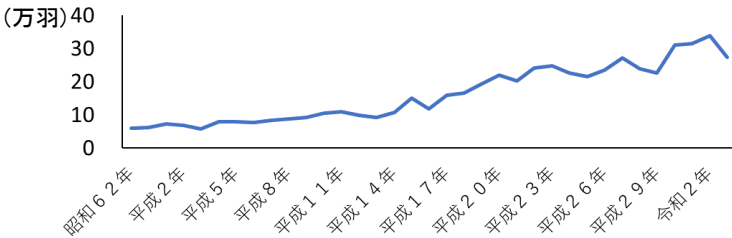


図1 県内全体のガン類・ハクチョウ類・カモ類の生息数の推移  
(宮城県環境生活部自然保護課)注)年度内の調査のうち、最大数でプロットした



写真1 大麦ほ場のハクチョウ

## 2 生育経過

収量調査の結果から、「ミノリムギ」の子実重は、鳥害有り区は無し区に比べて95%となりほぼ同等の収量が確保できました。その要因として食害による穂数減少があったものの、**1穂当たりの子実重が、鳥害有り区の方が無し区より多く**、補償作用があったと考えられます。生育調査の結果から鳥害有り区は、無し区に比べて穂数は少なく、穂長は長くなりました(図2)。シュンライでも、有り区は無し区に比べて97%となり同様の傾向が確認されました。衛星によるNDVI画像からも、鳥害を受けた部分の植生指数が、2月から4月にかけて回復していたことが確認できました(欧州宇宙機関(ESA), Sentinel-2)。

鳥害無し



子実重:431kg/10a  
穂数:432本/10a  
子実重/穂:1.00g/本

鳥害有り



子実重:408kg/10a  
(鳥害無し比95%)  
穂数:330本/10a  
子実重/穂:1.24g/本

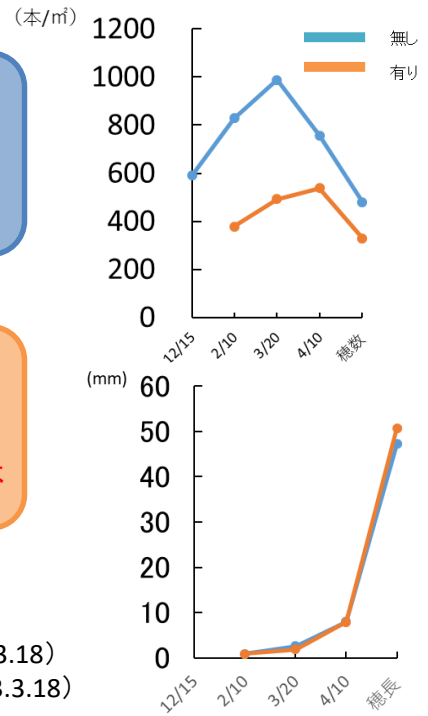


写真2 生育経過(2月~3月)

品種:ミノリムギ  
播種日・量:10月20日, 10kg/10a  
窒素施用量:基肥8.5kg/10a, 追肥6.0kg/10a(合計)  
追い払い頻度:3~4回/日  
撮影日:鳥害無し(R3.2.3.とR3.3.18)  
鳥害有り(R3.2.13.とR3.3.18)

## 3 まとめ

鳥害は生育前半にある程度の被害を受けても、その後は生育の補償作用が働き、子実重には大きな差が出ないことがわかりました。したがって、鳥害の抑制にあたって、現状では、過度の負担とならないような追い払い活動で十分と考えられます。

麦類の収量・品質の確保にあたっては、鳥類の生息数や被害状況に留意しながら、引き続き適期播種や適期・適量の追肥など、基本的な栽培管理を徹底しましょう。